

# 飯豊町「ゼロカーボンシティ」宣言

～2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～

近年、地球温暖化の進行やその影響による異常気象から、世界的に甚大な自然災害が頻発しています。飯豊町は、気候変動が暮らしの著しい脅威となっていることを認識し、気候非常事態宣言を発し、この危機的な状況に向き合い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みを強化することとしました。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。その後、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする必要がある」と示されています。

飯豊町は、町民や事業者、行政が一体となって、町が掲げるSDGs未来都市計画、バイオマス産業都市構想及び飯豊電池バレー構想の実現と、先人の努力と知恵により受け継がれてきた「日本で最も美しい村」の豊かな暮らしを次世代へ持続的に引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言します。



令和2年12月15日

飯豊町長 後藤 幸平